

A01-011 アダプティブ・ロウイング

Adaptive Rowing

1 ハンディキャップとロウイング

Adaptive rowing

心や身にハンディキャップ(障害)がある人でも、もちろんロウイングのチャンスはあるし、そうでなくてはならない。FISAの世界選手権では、2002年のセビア大会から、アダプティブ・ロウイング種目が追加された。



工夫されたシートで力漕する片足のスカラー



片手の障害に対し、ハーネスを工夫してハンドルとリンクさせ漕ぐ2人。
www.nloei.nlの写真集より抜粋、オランダ TweeHead 2004 での風景

インターネットでは、adaptive-rowing のキーワードで、多くの海外関連情報を手に入れることができる。視覚障害(全盲)の人が、シングルスカルを漕ぐことさえも可能だ(サポートのスカラーとパディを組み、進行方向をアシストする)。固定観念に囚われているとできないことでも、発想を変えれば、可能な世界が少しずつ広がっていく。



アダプティブ・ロウイングのウェブ情報の例: アルゴノート RC
<http://www.argonautrowingclub.com/adaptive> (2004.6)

2 日本ではまだごく一部だけ

In Japan ...

現実には(少なくとも日本のロウイングでは)、まだハンディキャップを持つ人たちにとっては、充分な受け入れ準備(施設、装備、心構え、技術)がなく、また自己開拓の機会も少ない。し

水上という特殊な環境のために、障害を持つ人たちにとってこのスポーツは遠い世界だったかもしれない。しかし、誰でも楽しめるし、競うこともできるスポーツとして成長している。

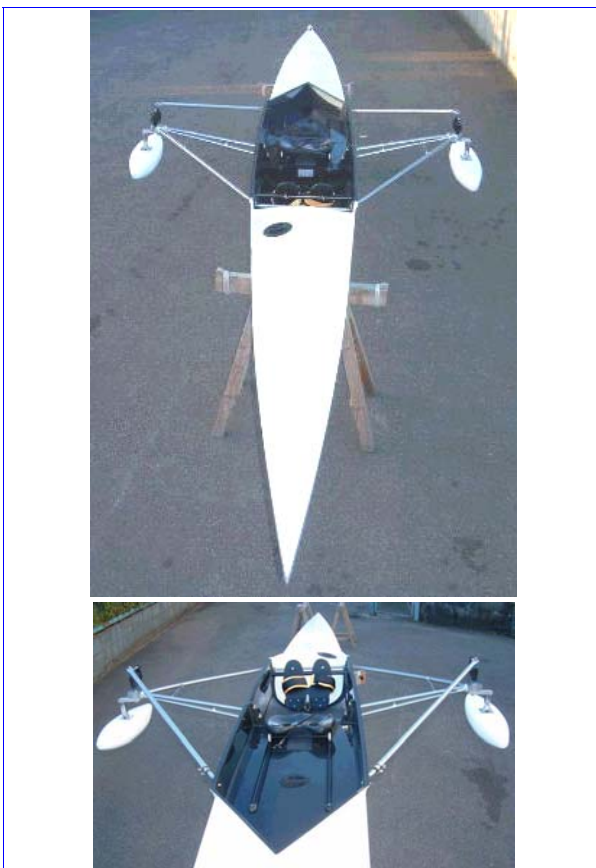
しかし、日本ボート協会では、2007年に日本アダプティブロウイング協会も設立し、世界選手権のアダプティブ・ロウイングやパラリンピックへの参加を目指し、本格的に活動を開始した。各都道府県レベルでの、地域協会参加にアダプティブロウイング協会を設立する動きも本格化している。地域には、目立たなくても、アダプティブ・ロウイングに理解を示すクラブや指導者がきつというはずである。

道は遠いが、すべての人がロウイングの場に気持ち良く参加できるように、これからのロウイング世界を作っていかなければならない。それこそが本当の、Rowing for Everyone の実現でもある。アダプティブ・ロウイングの開拓、誰でも漕げるロウイング社会の実現には、やってみようという意欲が欠かせない。あなたがそのパイオニアになってはいかがだろうか？

3 メーカーの取り組み

Boat Builder's Challenge

アダプティブ・ロウイング用の装備として、それぞれのハンディキャップに対応したボート・オールを工夫しなければならない。その最大公約数的なデザインとしてはまず、転覆するおそれの極力少ない線形・装備が必要となる。例えば、桑野造船(株)でも2004年に、アダプティブ・ロウイング用のシングルスカルをリリースした(艇は2005年の世界選手権のアダプティブ・ロウイングにも採用)。従来のシングルスカルより幅広で安定が良く、軽量である。生涯スポーツや初心者の方のロウイング用としても可能性がひろがる。



桑野造船のアダプティブ・ロウイング用1×(同社HPより2004.6収録、編集) 長さ:6.3m、船体幅:0.53m、重量:18.5kg(フロート別)